

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200308		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイクラブ		
所在地	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷58		
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果市町村受理日	令和3年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2274200308-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和3年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出も制限されていますが、フロアやテラスで楽しめるイベントを常に考え利用者様の笑顔を絶やさぬようスタッフ一丸となっている。
 畑では季節ごとに様々な野菜を収穫し利用者様とお料理を楽しんでいる。
 どんな時も利用者様本位を基本に思いに寄り添い暖かい関係が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

98歳のご長老が入院中でやや寂しさもあるものの、献立への口出し(！?)や涼しい日を選んでの草取りにも余念なく、利用者は総じて壮健ぶりを発揮しています。皆で手をかけ、目をかけているためか畑のトマトや胡瓜は食べきれないほど実り、浅漬けなど副菜にしても消費が追いつかない勢いにあります。所内では「今日何を食いたい?」「そんなのつくれないよ」「教えてよ」と和気藹々の掛け合いが見られ、家族からは「ひとめでも会えればいいよ」「いつもありがとう」の言葉が届き、職員たちは「実際は会いたいのうに…」と気持ちに寄り添い、三者それぞれが互いを気遣う優しい空気が流れる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく、安心した暮らし ・なじみの暮らし ・利用者様に寄り添い近づけるように努めている	掲示と唱和に取り組み、理念の浸透を日々図っています。また年に1回の法人総会では年間目標に重ねて全体共有され、毎月のスタッフ会議でも目標の達成度合いについて確認があります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ対策の為、計画が実現出来ていない ・施設まわり近隣の草刈りを利用者様と一緒にに行っている	開設まもなくコロナ禍で地域との交流は難しい状況にありますが、事業所では利用者と一緒にの草刈りのついでに敷地と地続きの近隣のスペースもおこない、地域からお礼の言葉をもらえています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在はコロナ対策の為、書面や電話での取り組みを行っている ・地域の人々に会う機会がある時は認知症についての話をすることもある			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナにて実施出来てない現状報告は書面にて行っている	開設がコロナと重なり外部者が集まる運営推進会議は1度もできていません。それでも自治会長、民政委員、地域包括支援センターに書面開催として2ヶ月毎の事業所の様子を伝えることができています。	家族や畑のボランティアからはメッセージが届いていますが、他のメンバーからももらえるよう書面開催の返信シートの改良を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・現状を書面や電話で報告し協力関係を築けるよう努めている	市役所からはマスクや消毒液のほか、「喉が痛い」「発熱」となったらすぐ状態を把握できる検査キットも配付され、またワクチン接種も「職員も名簿をだしてくれたら…」との配慮を受けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・対象になる行為を理解し、他のアイデアで事故を防ぎ安全を保てるか等研修を行っている ・玄関の施錠をしなくても安全が確保できる工夫を常に考えてる	身体拘束適正化検討委員会是指針に基づき3ヶ月に1回実施していますが、法人全体での実施のため、事業所内の落とし込みがやや弱いことが視えます。玄関は常にオープンで換気は十分なものの、一方で不審者対策はさらに求められます。	利用者同士仲が良く、誘い合って車両の行き交う道路に出してしまうため、ユニットに施錠がありますが、「代案はないか」ということを定期的に議題にあげることを期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・どういう事が虐待か？どうして起きるか？などスタッフ会議で話し合う時間を設けている ・気持ちに余裕を持って勤務につけるようスタッフと何でも話すよう努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者・リーダー間では努力をしているがまだまだ不十分である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明してるが質問や不安等があれば、その都度時間を作り対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見・要望はスタッフ間で話し合い出来る限り運営に反映させている	月の様子を伝えるお便りと写真を3ヶ月毎に家族に送っていましたが、面会も十分でないことから、管理者からの手紙や写真もたつぷり20枚ほど、時には絵手紙や作品も同封しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議で十分話し合いを行い方向性を決めるようにしている	管理者としては「個人面談は四半期でやりたい」ものの、問題がないと半年に1回となってしまうため、会議の場だけでなく普段から「意見を吸い上げる」「良いおこないに気づく」事に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・気持ちよく働けるよう環境作りに気を配っている ・自覚と意識の大切さを伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・声掛けや技術に優れているスタッフが付き添い教育をしている。また、ランクアップ試験に向けて実践で学習している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者とのネットワーク作りを大切に、サービスの質を向上させるよう交流している ・良いなと思うアイデアは実践できるよう取り組みをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の面談でご本人と話す時間を十分作っている ・入所後は出来る限り密に対応するよう心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・状況をしっかり確認し不安や心配事が解決出来るようにコミュニケーションを深めている ・自社の施設の対応の仕方をオープンに伝え理解して頂く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の意向・ADLを考慮し必要に応じ他のサービス利用も出来るよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・得意分野や出来る事を見つけ気持ち良く楽しく一緒に出来るよう努めている ・教えてもらう事も多く場面によっては支えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と一緒に利用者を支える関係を築けるよう小さな事でも連絡・報告・相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも気軽に訪問出来るよう明るく楽しい雰囲気作りをしている ・コロナ対策の為、現在は面会制限中	時間制限をはじめ各種条件を備え、入り口のベンチや玄関の窓越しでの面会を実現させて、本人と家族の「会いたい」気持ちに寄り添っています。また普段の様子は動画に収めて見てもらうよう配しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・コミュニケーションが取りやすい話題を提供したり相性の良い悪いも把握している ・興味をひきそうなレクの提供にも取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現況は通常業務をこなす事が精一杯でそこまでの余裕がない現実		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・フェイストウフェイスという形の中で個々にその方の考え方、希望までを探り出す努力をしている	「何食べたい」「これがいい」のやりとりは日常茶飯事です。中華に携わっていた人の「餃子をつくりたい」は本人の有用感とともに、利用者の舌も大満足で、今後も継続の予定です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを参考にサービスの方向性を考えてる ・スタッフ会議でカンファレンスとして話し合える時間を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・カルテ、申し送りノート、伝言、変更点がある事は以上の形で把握し共有している ・カンファレンスで確認をかね共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・サービス計画書を作りそれに足したサービスを介護職が利用者様に提案して行く ・細かい部分までCMと相談している	併設事業所に勤務の介護支援専門員が週1回訪れ、その日勤務の居室担当者から直接聴取したり、管理者に状況を確認したうえで介護計画書を作成しています。	計画作成担当者となれる職員がいないう場合は、事業継続を踏まえプラス1名を目安に事業所で養成していくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日、申し送りという形で変更点があれば情報が引き継がれていく形になっている ・特に個別ノートはその日どのように過ごしたかが良く分かるように書いている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・サービス計画書を利用者様の家族に説明する際に新たなニーズがあれば対応可となっている ・難関でも出来る方法を考えてみる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握が不十分でありコロナの為支援が出来てない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に2度訪問医が来て自ら医者に自分の言いたい事を直接話し納得して解決している	月2回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。優しく、よく話を聴いてくれる医師のことを皆大好きで、話が長引き先生を引き留めてしまうことは事業所としては申し訳なく、悩ましい限りです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職は在中なし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・コロナの為、病院関係への来院はひかえているので関係づくりも出来ない ・相談員とは電話での情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に終末期(看取り)に関しては家族と話し合い説明もっており介護職もそのスキルを持つ ・看取りの研修の場をもっと作っていきたい	開所まもなく1名をお見送りしていますが、事業所として初めてのことで反省点もあります。今後も「口径摂取できなくて点滴が必要であつても自然な最期を望む」という家族がいれば取り組んでいきたいとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設長が24時間オンコール対応をしている ・サニーメディカルと24時間連携が取れるようになっている ・事故対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・職員は身についているが地域との協力体制が未だできていない ・防災訓練を定期的に行っている	消防署は「コロナ禍で立ち会えない」とのことだったので、水消火器を借りて「地震・夜間」の想定で実施しています。水消火器は利用者からも「やりたい」と手が挙がり、6名ほどが体験しています。	昨年課題とした備蓄の消費期限のリスト化は速やかに達成くださっていますので、次回は職員の習熟度(消火器は独りで操作可能など)の進捗が把握できるよう期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者を尊重し思いやりのある声掛け対応をしている ・自分が言われて嫌なことされて嫌なことは絶対にしない	「(料理を)つくるのが遅いよ」「片付けはこうやしないと…」などと都度職員を叱咤激励する朗らかな主婦OB軍団に、職員も上手に返しができていて、リビングには利用者の有用感が満ちています。	職員同士の会話把握が容易な人が多くいるため、年1回の接遇研修だけでなく、毎月振り返りテストをおこなう等があれば、なお良いと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分の気持ちを伝えられるよう話をする時間を大切にしている ・特に入浴時は1対1なので思いを聞けるチャンスである		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位を守り1人ひとりのペースを大切に1日を充実出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみには気を付けている ・特に女性の利用者とは一緒にその着る服を選ぶ楽しみがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立を一緒に考えたり調理を手伝ってもらっている ・食器拭きも自ら行って下さる	冷蔵庫を開けて「何つくる？」と利用者からリクエストや助言を受けて毎日の献立が決まっています。また週1回ほどの頻度でパフェやカップケーキづくりの日もあり、利用者もデコレーションを手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回記録し把握している ・栄養バランスを考え量や形態を個人に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自立の方には声掛けをし見守りが必要な方や介助が必要な方に合わせて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にて排泄パターンを把握し失敗する前にトイレ誘導を行えるよう努めている	リハビリパンツとパッドで過ごす人には食後などの目安をもって2時間に1回ほど声かけと誘導をおこない、また家族の負担を配慮してパットの消耗も常に気にかけ、大きさや種類を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜を多く料理に取り入れ午前、午後運動出来る時間を作っている ・主治医と相談もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・楽しんで入浴してもらえるように工夫している ・お話したり歌を歌ったり笑い声が聞こえる ・入浴剤やみかん風呂など人気である	週2日を基本に、本人の「入りたい」にはシャワーで速やかに応えています。蜜柑を浮かべたり、温泉の素を入れ「こんなお風呂もいいね」と利用者の発語を引き出し、拒否の症状も薄らいでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調や習慣に合わせて休んでもらっている ・特に夜間は安心して眠れるような声掛けにも注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬表を共有しないよう周知している ・薬の変更も確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・興味もてる事を探して提供している また、何をしたいか利用者と相談しレク等を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物、外食、散歩、ドライブ等出掛ける機会を作っている ・現在はコロナの為、外出は自粛しているがテラスを利用しバーベQなどイベントを行っている	夜勤帯が加わって職員体制が3名となるとともに、涼くなる夕方の時間帯を散歩タイムとしています。食材の買い物に我先にと争奪戦だった頃と比べると寂しい限りですが、「ラーメン食べたい」には出前を頼むなど外出気分が持てるよう努めています。	事業所内喫茶やお取り寄せグルメ、DVD鑑賞など今後の取り組みメニューを増やしていきたいとしていますので、順次実現を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理は施設で行っているが希望の物を一緒に買いに行き、可能は限りお金を自分で払ってもらう		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも出来るように支援している ・現在は面会制限の為、利用者にも書いてもらった手紙に日常の写真を添えてご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングの壁に季節を感じられるような飾りつけを利用者様と行っている ・畑では季節の野菜を作っている ・季節ごとキュウリ、トマト、大根、ジャガイモなど収穫を楽しむことが出来る	コンタクトポイントを中心に消毒と換気を増やし、利用者もテーブルと手すりを拭く係を担っています。ソファとテーブルで応接セットもどきの空間をつくることで、自室に屋にこもりがちな人が食後の珈琲タイムを過ごすようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファやテラスの椅子でくつろいだり気に入った場所で過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使っていた物を持参してもらったり家具の位置や配置も希望に添えるよう配慮している	位牌や仏像、テレビ等それぞれが思いおmoiのものを持ち込んでいます。コロナ禍で面会は難儀でもお誕生日のお祝いは家族から届いており、泣きながら手紙の内容を皆に披露くださった人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に出来る限り自立した生活が送れるよう居室の場所や導線にも工夫している		